

様式 2

第 1 回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

| | | |
|-----------|-----------|--|
| 1 | 審議会名 | 第 1 回安曇野市行政改革推進委員会 |
| 2 | 日 時 | 平成26年 8 月 27 日 午前 9 時から午前11時30分まで |
| 3 | 会 場 | 長野県安曇野庁舎 3 階第 4 会議室 |
| 4 | 出席者 | 降旗会長、伊藤副会長、市川委員、高橋委員、保尊委員、那須委員、望月委員、 丸山恭弘委員、丸山庄一委員、降旗幸子委員、中山委員、山崎委員、青木委員、 藤原委員 |
| 5 | 市側出席者 | 宮澤市長、藤松総務部長、花村総務管理課長、西村職員課長、 細田政策経営課長補佐、高嶋財政課長補佐、宮澤地域づくり課長、 鎌崎総務管理課長補佐、丸山行政担当係長、伊藤主任、白澤主査 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 1 人 記者 1 人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成26年 9 月 5 日 |
| 協 議 事 項 等 | | |
| 1 | 会議の概要 | <p>(1) 開 会 (藤松総務部長)</p> <p>(2) 委員委嘱</p> <p>(3) あいさつ (宮澤市長)</p> <p>(4) 自己紹介</p> <p>(5) 会長及び副会長選出 会長：降旗富雄委員 副会長：伊藤勝委員</p> <p>(6) 諮 問 「第 3 次安曇野市行財政改革大綱の策定について」</p> <p>(7) 協議事項 ① 行政改革推進委員会について ② 第 2 次安曇野市行財政改革大綱・実施計画の取組経過等について ③ 第 3 次安曇野市行財政改革大綱策定について</p> <p>(8) その他</p> <p>(9) 閉 会 (伊藤副会長)</p> |
| 2 | 審議概要 | <p>(1) 行政改革推進委員会について (事務局より説明)</p> <p>(2) 第 2 次安曇野市行財政改革大綱・実施計画の取組経過等について (事務局より説明)</p> <p>○ホームページの情報の正確性及びセキュリティの充実 ・ホームページの情報更新における内容の正確性、妥当性の確認が必要 ・市の大事な情報を守るためのセキュリティシステムの構築 (U S B 端末の管理、情報責任者、情報セキュリティ責任者等の設置) が必要</p> <p>○環境マネジメントシステムの導入 ・市がイニシアチブをとって環境に対する取組みを推奨していくべき。エコアクション21等を導入することでPDCAをしっかりと回しながら成果を出していく</p> <p>○ホームページの管理について ・ホームページ全体を管理する部署を設置すべき</p> <p>○情報セキュリティ教育の必要性 ・国の情報セキュリティ協議会の仕組みを参考に、教育レベル、情報セキュリティの重要性の認識を再度上げていってほしい</p> |

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

○人事評価制度における目標設定について

- ・目標の連鎖として考えた時に、個々の職員がどのように部の目標に向かって動いているのか見えてこない。人材育成ということも含めて、その辺が不満となって出てきており、行政改革というのは単に職員の給与を減らしていくために使われているとの間違っただけの考え方も出てきている。

→制度自体は目標の連鎖がなされる仕組みになっているが、職員の制度に対する認識の甘さがあると考えられる。本人の評価がそのまま反映していくケースも見受けられるが、上司が日頃の行動記録等の中で部下に話をしながら評価していくよう進めている。

- ・行政機関は取組みが遅かった分、最新の人事評価の情報を活用していくことが出来る。より良いものを活用して公平な制度に仕上げてほしい。

- ・絶対評価ということで、Sランクが100%取れる可能性があるということだが、民間の感覚からしたらとんでもないことである。いろいろな形で民間の感覚に近づけていただいて業務の効率性、生産性をいかに高めていくか考えてほしい。業務改善も成果評価するという考えも必要ではないか。

→ランクの現状は、全体的なあるいは個別の調整の中で普通の曲線に収まっている。業務改善についても、自分の立てた目標以外でも評価項目となるシステムとなっている。

○職員教育について

- ・市は利潤を上げることが最終目的ではない。市民のために、地域のために自分の能力をどこまで発揮できるのか、このことを市長をはじめ上司がどうリードできるか、それが一番大事なことである。

○法令順守について

- ・些細なことを守れるかが全体のレベルの健全化を図るための重要な要素である。有意注意という意識を守っていくことを徹底していくことが、不祥事の発生防止に繋がっていく。

(3) 第3次安曇野市行財政改革大綱策定について

○どのようなキャッチフレーズ、キーワードで取り組んでいったらよいか

- ・将来的にも住みやすいまちづくりを目指し、行政の効率化を図っていく視点はどうか。
- ・行政改革に一番大切なのは人材づくり、職員の意識である。それがないと立派な計画を作っても意味がないので、職員の人材育成は強力に進めてほしい。
- ・市民の視点に立った行政改革と継続ということを強調したい。ずっと続けていかなければいけない、それがないと意味がないことである。
- ・高齢化に対応しながら情報格差を解消するためにIT技術を使ってより効率のいい市政を作っていくことを考えるべきである。また、平成28年から導入予定のマイナンバー制度をうまく使い、一人一人の住民サービスの向上に繋げていくべきである。
- ・行政改革をやったら地域に元気がなくなってしまったということであれば意味がない。地域の活力を取り戻す行政改革を。
- ・四角四面のマニュアルに翻弄されるのではなく、行政と住民のふれあいの中で、官民一体で新市スタートするというのでいいのでは。
- ・女性の繊細な考え方を取り入れて、また、若者の夢も実現できるような、夢のある、活性化した新しい安曇野市。
- ・協働のまちづくりの観点から、市民が自ら動く行政改革といった言葉が入ればよい。また、奪い合いではなく分け合える、そういう観念に立った行政改革はできないか。
- ・公民館と区が一体になっていない、その活動に住民が参加していないということがあるので、住民が本当に参加をして行政改革が出来るようなものを、謳っていったらよい。

- ・新本庁舎に業務が集約される中で、残された支所を通して住民サービスの満足度を高めるような施策が必要である。
- ・人員配置と事務事業の見直しにより、現状ある職員の不満を少しでも解消してほしい。
- ・リーダーシップで進めていく部分と、市民にしっかり意見を聞く部分の仕分けが必要ではないか。
- ・安曇野市の産業建設分野、観光とか安曇野のいい部分を発信する、ブランド力を深めるといった部分をどこかに入れていった方がよい。
- ・新本庁舎が出来ることによる新たな施設、組織、このことによる市民サービスの向上が極めて大事である。これをどうやって向上させるかを第3次の行革にしっかり盛り込んでいかなければならない。
- ・市民サービスの捉え方を検討していくとともに、自立、自活といったところに目標を置いた行政改革を進めていかなければならない。
- ・機械だけの行政にならないよう、どこまでITの活用を進めていくべきか検討すべきである。
- ・対等合併による弊害を検証して是正していくことが必要。また、施策についてもスクラップの考え方を取り入れていくべきではないか。持続性のある発展をする安曇野市を目指した行政改革をキーワードとしたらどうか。

次回の日程・・・9月下旬を予定